



泉さん(手前左)の指導を受ける学生たち

小唄流し踊り滑らか
八学短大生、練習に汗

7月15日に八戸市中心街で開かれる第46回八戸小唄流し踊り(東奥日報社主催)に参加する同市の八戸学院短期大学(外崎充子学長)では、地域の祭りを盛り上げる。

げようと、学生約150人が踊りの練習を積んでいる。

同短大は2008年から毎年参加し、今回が9回目。1年生が中心で、幼児保育学科とライフデザイン学科の2学科の新入生が共に取り組み数少ない行事という。

担当の幼児保育学科・三村弥生助教(44)は「学外の人から自分たちがどう見られているかを意識する良い機会。毎年たくさん拍手をもらえ、学生たちも自信を得て成長する」と参加の意義を語る。

学生たちは6月から、体育の授業で踊りを練習。21日は幼児保育学科の1年生約80人が同短大体育館で、日本舞踊泉流師範・泉彩菜さんから指導を受けた。初めはぎこちなかったものの、泉さんから「手の動きをしっかり止めて」「目線は遠くを見るように」と助言され、徐々に滑らかな動きを身に付けていった。

「指先まで意識しないといけないのが難しい。踊りで地域のお祭りを盛り上げたい」と同市の小笠原羽咲さん(18)。同じく同市の石倉ちひろさん(18)は「全員で踊りをそろえて、地域の人に頑張ったね、と思ってもらいたい」と話した。八戸小唄流し踊りは、八戸七夕まつり前夜祭として行われ、今年は7月15日午後5時半から、13団体の約千人が十三日町から三日町までを練り歩く。八戸ポータルミュージアム「はっち」裏の番町スクエアでは、一般市民も生演奏に合わせて踊ることができる。(新村菜穂)